

## 弓達 秀樹 議員



### 一問一答方式

- ①平成30年7月豪雨災害を教訓とした今後の治水対策
- ②公立小中学校のエアコン設置
- ③市立大洲病院
- ④議会におけるICT化

平成30年7月豪雨災害を教訓とした今後の治水対策について

**問** 9月7日、国土交通省は、5年間かけて集中的に治水対策を行う

河川激甚災害対策特別緊急事業の対象に、今回被災した岡山県倉敷市の小田川や愛媛県の肱川などを選定し、河道の掘削や堤防のかさ上げなどを行うこととした。

肱川では2018年度から202

3年度の事業期間で全体事業費約290億円、主に築堤や堤防のかさ上げなどに212億円程度予算を充当するとしているが、採択を受けた事業の主な内容などについて伺います。

**答** まず、緊急的な対応として樹木の伐採や河道掘削、暫定堤防7カ所の一部かさ上げの実施、鹿野川ダム改造事業によって可能となる操作規則の変更などが予定されています。

おおむね5年間では、激特事業により今回の7月豪雨が越水しないよう再度災害防止を目的に築堤や暫定堤防のかさ上げ等が行われ、それによって可能となる野村ダム、鹿野川ダムの操作規則の変更が行われます。また、おおむね10年間では、今回の7月豪雨と同規模洪水を安全に流下させるために、さらなる河川整備等を推進するとともに、山鳥坂ダムの整備を実施すると伺っています。

公立小中学校のエアコン設置について

**問** 菅官房長官は7月24日の定例会見で、児童・生徒の安全、健康

を守るための猛暑対策は緊急の課題として、小・中学校のエアコン設置を政府として補助する考えを示された。政府からの補助の方針を受け、来年の新学期を迎える前の春休み期間中に、できる限り一斉に前倒しでエアコン設置することは可能か。前倒しが不可能であれば、実施時期は具体的にいつごろになるのか。

このことについては、県教育委員会に確認した結果、今のところ文科科学省からは具体的な情報提供はないとのことです。

**答** 本市としての実施時期は、施設の耐震対策終了後、速やかに工事に着手したいと考えていますが、現在、今回被災した学校施設の災害復旧工事を最優先で実施しているところですので。

このことから、実施時期は具体的に申し上げられませんが、今後、国からエアコン設置に対する政府補助の詳細な内容が示されるものと考えておりますので、国の動向を注視しながら、少しでも早く空調設備が整備できるよう準備を進めていきたいと考えています。

### 市立大洲病院について

**問** 市立大洲病院は、薬部門を病院から分離する院外処方を本年8

月1日から実施されているが、従来、市立大洲病院の収益において薬部門は大きな部分を占めていたと認識している。なぜ薬部門を急に切り離す決断をされたのか。

**答** この変更は、当院における薬剤師不足と人材確保の困難さが大きな要因です。平成24年度までは正職員9人の薬剤師が在籍していましたが、平成28年度には正職員4人と嘱託職員1人の5人に減少し、毎年薬剤師を募集しても、なかなか応募者はなく、薬剤師への負担は大きくなり過重労働が続いていました。そのような状況の中、昨年11月の時点で平成29年度末での退職申出者が2人あり、また1人の育休取得予定者がいるというところで、平成30年度の薬剤師の確保が困難となり、本来の薬局体制の維持と服薬指導ができなくなることから、外来診療での投薬については院外処方に切りかえざるを得ないと決定したものです。